

テーマ1 国民に健康な食を提供 - 信頼できる北の大地から - 農山漁村の生きもの調査～自然豊かな食べ物の故郷

【背景】食べ物の生産現場から発信される「安全・安心情報」への関心の高まり
【ねらい】生産現場の自然環境等の調査結果を、安全な食べ物が生産される農村のPRに活用

豊かな自然環境のもとで美味しい農産物が生産されています



地域の子供達による田んぼの生き物調査



用水路の生き物調査



展開イメージ

北海道内の農山漁村は、豊かな自然環境のなかで「美味しく安全な」食べ物を生産しています。

旭川開発建設部は、

地域の子供たちと協働して、河川や農地、用水路の生きもの調査を行っています。

これらの調査結果を地域に提供し、そのデータを「多様な生きものの棲む環境で生産された農産物」のPRに役立てるための検討を行います。

また、調査結果は、消費者の皆さんが「食べ物の故郷」の環境を確認できるようホームページ等に掲載する予定です。

平成18年度は、地域の方々と協働して田んぼの生きもの調査を管内2カ所(天塩川上流地区、空知川右岸地区)で7月に実施する予定です。

テーマ1 国民に健康な食を提供—信頼できる北の大地から— 地域の方々と協働し「みどり豊かな地域づくり」を支援します。

【背景】地域の創意・工夫によって「売れる米づくり」を推進

【ねらい】消費者が期待する「安全で安心なおコメ」の生産を支援するため、地域の方々と協働で減農薬米の生産や景観形成にも役立つハーブ等の植栽を広げます



展開イメージ

消費者は、美味しくて安いお米を求めるとともに、安全で安心なお米を期待しています。

このため、北海道の水田地帯では、田んぼの畔や水路敷地にハーブ等を植栽してカメ虫を抑制し、これによって除草剤の使用量を減らしたお米の生産に取り組んでいます。

旭川開発建設部では、平成15年度から地域住民と協働してハーブでクリーンな米づくりの取組を始めています。

平成18年は、富良野市で実施を予定し、植栽には、地域のNPOや小学生の手により、農業用水路沿いにハーブ等を植える予定です。

ハーブ植栽と減農薬米

カメ虫による斑点米被害を防ぐために、水田の周辺の除草が欠かせません。

水田の畔や道路や水路沿いの敷地に、ハーブ等を植えることによってカメ虫のすみかとなる雑草の抑制が期待され、さらに、潤いある農村景観づくりにも結びつきます。